

令和八年度 入学試験問題

国語

受験上の注意

1. 問題用紙は十五ページあります。
2. ページが抜けているところや、印刷の見にくいところがあれば、ただちに申し出なさい。
3. 試験時間は四十分です。
4. 解答用紙には受験番号と名前を記入し、受験番号を必ずマークしなさい。
5. 各問題とも、解答は解答用紙の所定の欄にマークしなさい。
6. 国語のマークする箇所は

1

 ～

27

 です。

三重高等学校

国語の問題は次のページからです。

【一】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【配点40点】

日本人の自己意識は他民族、たとえば欧米人のそれとは質的に異なっているのである。ヨーロッパ人は自分というものを、実体的にとらえようとする。自分というのは、それこそ、かけがえのない存在であり、独立した一個人の人格と信じている。ヨーロッパの哲学が古代ギリシアのむかしから イッカンとして求めてきたのは、ただひたすら「自分」というものの本質であった。「なんじ自身を知れ！」というデルフォイの神託を哲学の出発点としたソクラテス、「われ思う、ゆえにわれ在り」を哲学の原点に据えたデカルト、「人間とは自分の存在を自覚した存在者だ」とするキルケゴール……ヨーロッパの哲学史は、「自分」という実体へ向かっての旅だったといってもよい。

¹ それに対して日本人は自分という一個人の人間を実体としてではなく、機能として考えてきた。(A) 個人はけっして単独に存在するのではない。つねに「世間」で他の多勢の人たちとさまざまな人間関係のなかで生きるのだ——というのが ² 日本人の人間観の前提だった。げんに「人間」という言葉自体がそうした考え方を正直に語っている。この言葉はいうまでもなく中国から受け入れた漢語であるが、この漢語の意味はもともと人間の世界、すなわち「世間」ということなのである。(B) ということは、日本人にとって「世間」も「人」も同一のように思われていたからにちがいない。日本人は社会と個人を一体化して考えてきたのである。

日本人は、ヨーロッパ人のように自然と対決するのではなく、自然に親しみ、自然に同化することによって安らぎを得てきた。(C) それと同じことが社会についてもいえる。日本人は欧米人のように個人を社会に ¹ I することなく、世間と自分をひとしなみに表象してきたのだ。³ 「渡る世間に鬼はない」という諺がその一端を語っている。(D) 日本の自然が優しい山河であるように、日本の世間も——他民族の社会とくらべれば——結構、心安い社会だったからであろう。

むろん、日本には地震をはじめとして自然の災害も少なくない。同様に、日本の社会も甘えていればそれですむというほど寛容なものだったとも思えない。世間の目は往々にして冷たいのである。 ² II、多くの異民族が同居しているのが常態であるような他の国々とちがって、 ⁴ 日本はきわめて同質的な社会であり、自然のきびしさも、社会のきびしさも、ほかとくらべればずっと気楽なものといえる。そして、日本人の人間観や「自分」意識は、このような風土の産物といってよい。こうした社会では、人びとは自分を主張し、世間と対決して生きるよりも、自分を ⁵ カエリみ、世間という人間関係のなかでの自分の立場をつねに意識して、社会に協調して生きようとするのである。

⁵ 日本語で一人称の代名詞がこれほど多いというのは、まさしく右のような事情によるのではなからうか。というのは、日本語の人称代名詞は時と場合によって使い分けることによってその数をふやしていったとみていいからである。つまり、「わたくし」とか「わたし」とか「ぼく」「おれ」あるいは「こちら」「当方」といったような自分をいいあらわす言葉は、話す相手によって使い分けられ、微妙な人間関係を証言しているのである。(E) これらの言葉は実体としての、「自分」をさまざまな角度から考えるために生まれたのではなく、「自分」というものの立場をさまざまに配慮して、あくまで機能的

に、対人関係に即してかえりみるところから数をふやしていったのだ。

Ⅲ、日本語における一人称代名詞の数の多さは、日本人がそれほど「自分」について意識している証拠とみるより、それだけ日本人が対人関係を気にしていることを語っているといふべきであろう。じつさい、日本人である私自身、相手によって「わたし」といふべきか、「ぼく」といふべきか、「おれ」といってもいいか、それこそ無意識のうちに心を配っているのである。

(森本哲郎『日本語表と裏』による)

問1 線部 a 「イッカン」・ b 「カエリみ」を漢字に直したとき、同じ漢字を用いるものを、次の各群の①～⑤からそれぞれ一つずつ選び、a は解

答番号 1 に、b は解答番号 2 にマークしなさい。

a イッカン

- ① 興味カンシンが深い。
- ② 映画にカンドウした。
- ③ 新入生のカンゲイ会。
- ④ トネルがカンツウした。
- ⑤ カンキョウに順応する。

b カエリみ

- ① クラブのコモン。
- ② 本をヘンキヤクする。
- ③ カンコウ地を歩く。
- ④ シケンを受ける。
- ⑤ 実家にキセイする。

問2 線部 1 「それ」が指す内容として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 3 にマークしなさい。

- ① ヨーロッパ人は自分の本質に対する意識が希薄なうえに、周囲の人との関わりや雰囲気などにも意識を向けずに生きていること。
- ② ヨーロッパ人は自分の本質を客観的に認識するため、世間との関わりを重視し、自己を社会的存在としての個人ととらえていること。
- ③ ヨーロッパ人は自分というものを実体的にとらえるため、自分をかけがえない存在であり、独立した一個の人格と考えていること。
- ④ ヨーロッパ人は自分というものを機能としてとらえ、個人は単独ではなく、多勢の人たちとの関係の中で生きるものと信じていること。
- ⑤ ヨーロッパ人は自分の本質を求めるため、他との関わりの中で自己を見つめて、多勢の中の特別な存在となるよう自らを作り上げていること。

問3 — 線部2 「日本人の人間観」の説明として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **4** にマークしなさい。

- ① 人間は多勢の人たちの中でいかに自分の存在を自覚できるかを第一とすべきであるという考え。
- ② 人間は世間の中で自分の立場を常に意識し、周囲に合わせて生きていくものであるという考え。
- ③ 人間は様々な人間関係の中で生きるために、自分自身についてよく知る必要があるという考え。
- ④ 日本は社会や自然が他国より優しい風土であるため、何事にも気楽でいることが一番であるという考え。
- ⑤ 日本は自然災害が多い風土であるため、社会に甘えず、自立する努力をしなければならないという考え。

問4 本文中の空欄 **I** に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **5** にマークしなさい。

- ① 拒否
- ② 同調
- ③ 反映
- ④ 対置
- ⑤ 移行

問5 — 線部3 「渡る世間に鬼はない」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **6** にマークしなさい。

- ① 世の中には情けのある人ばかりではなく、内面に冷たさを秘めた人も少なくないということ。
- ② 生きづらい世の中のように思われるが、想像していたほど大変なことはあまりないということ。
- ③ この世において、鬼のような空想上の存在はないので、現実を見つめて行動すべきということ。
- ④ 世の中には無慈悲な人ばかりではなく、他者への思いやりのある人もいるものであるということ。
- ⑤ 世の中には厳しい試練ばかりが待ち受けているが、我慢していればいつかは去っていくということ。

問6 線部4「日本はきわめて同質的な社会」とあるが、それはどのような社会か。その説明として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解

答番号 7 にマークしなさい。

- ① 複数の民族と同居することによって、それぞれの風俗が混ざり合って中和した結果、生活習慣や民族性にも差のない社会。
- ② 複数の民族と混じり合って生活してきた中で、各自の生活の仕方を主張しあってきたため、その特質や民族性が強化された社会。
- ③ 異民族とほとんど同居することなく、ほぼ同じ自然環境や生活環境の中で生きてきたため、一つの同化した民族性が完成した社会。
- ④ 異民族と同居することがなく、社会的階層によって細かく分断された構造を持つため、それぞれの階層の中で独自の特質を持つ社会。
- ⑤ 異民族と混じり合って生活することがなく、各地域の独特の自然環境の中で生活してきたことにより、それぞれの地域性が純化された社会。

問7 本文中の空欄 Ⅱ、Ⅲ に入る語として最も適当なものを、次の①～⑤からそれぞれ一つずつ選び、Ⅱ は解答番号 8 に、Ⅲ は解

答番号 9 にマークしなさい。

- ① したがって
- ② しかし
- ③ たとえば
- ④ また
- ⑤ ところで

問8 線部5「日本語で一人称の代名詞がこれほど多い」理由として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 10 にマークしなさい。

- ① 自分の立場を相手との関係性を踏まえて細かく配慮しながら生活しているから。
- ② 相手の立場を思いやりながらも自分の意見を効果的に主張して生活しているから。
- ③ 自分の立場を様々な角度から検証したうえで自己を最優先にして生活しているから。
- ④ 自分の立場を中心に据えて相手との距離感を考えながら使い分けて生活しているから。
- ⑤ 相手の立場と自分の立場の違いを相手に思い知らせたいと考えながら生活しているから。

問9 本文には、「ところがそれが日本ではいつの間にか『人』そのものをあらわす言葉になった。」という一文が抜けている。本文中の（ A ）～（ E ）

のどこに入れるのがよいか。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 11 にマークしなさい。

- ① （ A ） ② （ B ） ③ （ C ） ④ （ D ） ⑤ （ E ）

【二】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【配点40点】

なんで——なんて、そんなこと、聞くまでもない。

私がしおりと親しくするのを、朱里^{あかり}ははつきりと拒んでいる。それはもう、目に見えて明らかだった。その証拠に、私がしおりのほうを気にしていると、とがめるような朱里の視線が、すぐさま横顔に飛んでくる。まるで、牽制^{けんせい}するみたいに。

少しずつ、だけど確実に、何かがずれ始めている。

そしてそれがいちばん、はつきりと目に見えて分かるのは、やっぱり、放課後の教室だった。

「おーい、朱里——！」

人気のない、五人きりの教室の中に、朱里を呼ぶ甲高い声が響き渡る。

手を止めて顔を上げると、ドアの向こうから背の高いショートボブの女の子がぶんぶん手をふっていた。数秒前まで不機嫌そうに、パレットの上でペタペタと絵の具を溶いていた朱里は、とたんに顔をぱつと輝かせて、「ちーちゃん！」と、その子に駆け寄っていく。

——ああ、まただ。

のど元にこみ上げた苦い感情を、ため息とともにのみ下す。だけど、心はざらりと毛羽立¹ったまま、ちっともおだやかになんてはくれなかった。きやははは、と廊下から聞こえてくる朱里たちの笑い声が、やたらと耳にさわる。

今日で、応援旗制作を始めてから六日目。

だけど、朱里がまともに活動に参加していたのは、最初の二日——いや、二日目も途中で帰ってしまったから、初日だけ、だった。

「あつれー？ もしかして朱里も応援旗で残ってんの？」と、隣のクラスの女子が、ひよっこりとうちのクラスの教室をのぞきこんで言ったのは、今から、三日前のこと。どうやら朱里と同じバスケット部の子だったらしく、以来朱里はこれ幸いとばかりに、連日、隣のクラスに入り浸るようになってしまったのだった。

——なんか……なんかやだ。こういうのって、すごく。

心の奥でつぶやいて、私は ²ぎゅつと奥歯をかみしめる。思っているだけじゃなくて、実際に言わなくちゃいけないんだ、と分かっているけれど、隣の教室へ踏み込んでいって、朱里を連れ戻すことを考えると、³どうしても足がすくんだ。もしかすると、私の煮え切らないところを、朱里は「やさしい」と言ったのかもしれない。

「葉子、大丈夫？」

私がよほど険しい顔をしていたんだろう。おずおずとしおりが話しかけてきて、私はようやく、はつとわれに返った。

「……うん、平気」

かろうじて笑顔を返すと、しおりも、ほっとしたように目元をゆるめた。

しおりとは、早朝の教室でしゃべったのをきっかけに、じょじょにはあるけれど言葉を交わすようになっていた。ぎこちなさはまだ完全に消えてはいないし、しおりのほうに壁を感じることもときどきある。だけど、「葉子」としおりが呼んでくれるようになったことだけで、今は十分にうれしかった。

それに——絵を描くことは、やつぱり、すごく楽しかったんだ。

普段はめったに使わないような大きな刷毛^{はけ}で、思い切り、まだ白いところをすうつとなぞる。そうすると、心にあったもやもやも、自分のふがいなさも、全部ぜんぶ、ざあつと流されていくような気がした。百井さんと松村さんは、細かい作業が苦手なようで、細筆を使って描くところは、私としおりのふたりでやった。息をつめて、筆先に集中して、丁寧^{すがすが}に色をつけていく。そうして、ふうつと息を吐いて筆先を持ち上げる瞬間は、急に視界が広がって、清々^{すがすが}しい気持ちになれる。

作業を終えて、片付けをしている時に、

「だいぶ、進んだね」

と、うれしそうに百井くんが言った。「頑張れば、明日か明後日^{あさって}には完成するんじゃないかな」と松村さんがあいづちを打ち、私としおりも、笑顔でうなずく。応援旗を見下ろせば、パステルカラーの空の中に、まだ白いままのクジラのシルエツトがくつきりと浮かび上がっていた。

——どうか無事に、この絵が完成しますように。

祈るようにそう思いながら、私はそつと、教室のドアを閉める。

事件が起きたのは、その翌日のことだった。

午後四時。外は、まだずいぶん明るくて、グラウンドからは野球部の掛け声が、中庭からはトランペットの音色が響いている。作業を開始してまだ十分しか経^たっていないこともあって、その時教室にはまだ、朱里も含めた応援旗係全員が顔をそろえていた。

そんな時、それは起こった。

「あ」

ぼつ、と目の前で鮮やかな赤色の絵の具がしぶきのように散ったのと、松村さんが短い悲鳴を上げたのは、どっちが先だったんだろう。

——嘘^{うそ}。

気づいた時には、背景の空の上に、赤い絵の具が点々と散っていた。拭きとる間もなく、赤い絵の具はすうつと吸いこまれるようにシミになっていく。目の前には、赤く染まった筆をパレットに置いて、青ざめた顔をした松村さんの姿があった。

「ごめん！ ごめんなさい……」

一瞬、しん、と静まり返った教室の中で、だれよりも先に声を上げたのは、松村さん本人だった。今にも泣きだしそうな顔で、「どうしようどうしよう」とうろたえている。

実際、これはまずいかも、というのは、私自身も思ってしまったことだった。

上から塗り直したって、背景の色が薄いぶん、どうしても派手な赤色のほうが浮き出てしまう。ごまかそうとしても、かえって悪目立ちしてしまいそうだ。だけど今は、涙目になっている。松村さん⁴を責める気にはなれなかった。

大丈夫だよ、なんとかなるよ――。

そうフォローの言葉を口にしようとした。けれど、その時だった。

「えー、超目立つじゃん。どうすんの？ これ」

ロコッな物言いにぎよっと顔を上げると、さっきまで手持ちぶさたにしていた朱里が、すぐそばに立っていた。きれいに整った眉をひそめて、応援旗を見下ろしている。

「あ、でも、上から塗り直せば……」

おずおずと、百井くんが言いかける。

けれどそれを朱里は、「や、そこだけ塗り直しても、かえって目立つでしょ」とあつさり一蹴した⁵。その一言に、松村さんはさらに耳を真っ赤にして、「ごめんなさい……」とうつぶえてしまう。しおりが手を当てた松村さんの肩は、すでに、泣きだす寸前のように小さく震えている。

――なんで？ 朱里……。

思わず隣をふりあおぐと、朱里はもう他人事^{ひとごと}みたいにつまらなそうにそっぽを向いていた。

その瞬間、私の中で、何かが弾^{はじ}けた。

「朱里」

口を開くと、思ったよりも低い声が出て自分でも驚いた。

朱里が、おっくうそうに首をもたげて私を見る。その視線にひるみそうになったけれど、私は、構わずに口を開く。

「……なんで、そういう言い方するの。それに、ずっとサボってたじゃん、朱里。こんな時だけ責めるのって、おかしいよ」

言った。言ってしまった。

⁶ 水を打ったような静けさの中で、カッン、と時計の針が動く音がした。しおりの、そして百井くと松村さんの視線をひりひりと肌に感じる。怖い。怖くてたまらない。

「……何ソレ。なんであたしが、悪者みたいになってんの？」

⁷抑揚のない声で言って、朱里がカバンをつかむ。そしてポニーテールを揺らして、私をまっすぐに見た。少し前まで「葉！」と笑いかけてくれていた、勝気な猫みたいな瞳。でも今そこにあるのは、以前のような親しみじみなかった。

⁸「日向」と「日陰」の境界線。それを朱里がたつた今、私の前に、完全に引いたことが、はっきりと分かった。

「……もういい。帰る。」

そう吐き捨てると、ふり向きもせず、朱里は足早に歩いていってしまった。その背中を視線だけで追いかけながら、私は、そつと目をふせる。

泣きたかった。

⁹「だけど、泣かない、と思った。」

だって、私は今、朱里に本当の気持ちを言った。そのことに、後悔はなかったから。

(水野瑠見『十四歳日和』による)

問 1 ——— 線部 1 「心はざらりと毛羽立ったまま」とあるが、このときの葉子の気持ちとして最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号

12 にマークしなさい。

- ① 朱里よりも、しおりとの関係を優先していることへの後ろめたい気持ち。
- ② 隣のクラスの子と楽しそうに過ごしている朱里をうらやましく思う気持ち。
- ③ 朱里に対する自分の思いを言えないことへのやるせなさを感じている気持ち。
- ④ 朱里がいないことで、気が散ることなく作業に集中できるので安心した気持ち。
- ⑤ 絵の上手なしおりに助けてもらい、きれいな応援旗ができそうでうれしい気持ち。

問 2 線部 2 「ぎゅっと奥歯をかみしめる」とあるが、このときの葉子についての説明として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号

号 13 にマークしなさい。

- ① 隣の教室で朱里たちが騒いでいるのを注意しようと思い、実行に移そうと決意している。
- ② 隣の教室で騒いでいる朱里たちの楽しそうな様子を見て、仲間に入れない悔しさに耐えている。
- ③ 隣のクラスの生徒と仲良くする朱里に寂しさを感じ、涙が出そうになるのを必死に我慢している。
- ④ 隣のクラスの生徒に興味を持ち始めて隣の教室に足しげく通う朱里に対する失望を心に刻んでいる。
- ⑤ 応援旗制作に参加せず、隣の教室に入り浸って騒いでいる朱里に対する不快感を口にしたいのをこらえている。

問 3 線部 3 「どうしても足がすくんだ」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 14 にマークしなさい。

- ① 朱里の無神経な行動を皆の前で注意すると、朱里を傷つけてしまうかもしれないから。
- ② 自分が意見することで朱里から反抗され、応援旗制作が進まなくなるかもしれないから。
- ③ 朱里をクラスに連れ戻すことで、かえってクラスの雰囲気が悪くなるかもしれないから。
- ④ 朱里を連れ戻すことで、隣のクラスの人から自分に変な目で見られるかもしれないから。
- ⑤ 朱里にクラスの応援旗制作を手伝うように注意することで反発されるかもしれないから。

問 4 線部 4 「松村さんを責める気にはなれなかった」とあるが、その理由として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 15 にマークしなさい。

- ① クラスの中で一番熱心に制作に励んでいたから。
- ② 応援旗の失敗の原因は朱里にあると考えたから。
- ③ 今まで一緒に苦労して制作してきた仲間だから。
- ④ クラスの雰囲気がこれ以上悪くなるといけないから。
- ⑤ 松村さんだけではなく自分にも責任があると思ったから。

問5 ——— 線部5 「一蹴した」の意味として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **16** にマークしなさい。

- ① 相手の考えにすぐさま共感すること。
- ② 相手の気持ちを疑い、信用しないこと。
- ③ 相手の言い分をそのまま受け入れること。
- ④ 相手の要求を問題にもせず拒絶すること。
- ⑤ 相手の考えをうわべだけで賛成すること。

問6 ——— 線部6 「水を打ったような静けさの中で、カッン、と時計の針が動く音がした」で用いられている表現技法として最も適当なものを、次の

- ①～⑤から一つ選び、解答番号 **17** にマークしなさい。

- ① 直喩法
- ② 隠喩法
- ③ 擬人法
- ④ 倒置法
- ⑤ 省略法

問7 ——— 線部7 「抑揚のない声」とはどのような声か。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **18** にマークしなさい。

- ① くぐもった声
- ② 泣き出しそうな声
- ③ 弱弱しい声
- ④ 淡々とした声
- ⑤ 力強い声

問 8 ——— 線部 8 『日向』と『日陰』の境界線。それを朱里がたった今、私の前に、完全に引いた」とあるが、この描写が意味することとして最も適当

なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 19 にマークしなさい。

- ① 朱里が葉子との関係をはっきりと断ち切ろうとしたこと。
- ② 朱里がクラスの応援旗制作の活動に飽きてしまったこと。
- ③ 朱里がグループ内で中心に立っていることを示したこと。
- ④ 朱里が葉子に秘密を話さないということを決意したこと。
- ⑤ 朱里が葉子の努力を評価せず、無関心な態度を取ったこと。

問 9 ——— 線部 9 「だけど、泣かない、と思った」とあるが、このときの葉子の心情として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 20 にマークしなさい。

- ① 葉子に対して思う存分不平を言ってきた朱里と、この場を限りに絶縁しようという決意。
- ② これまでは言えなかった朱里に対しての不満を、やっと本人に吐き出したことへの満足。
- ③ わがままな行動を繰り返してきた朱里との関係を修復できるか分からないことへの不安。
- ④ 悪化してしまった朱里との関係を、修復しようがないことを悟ってしまったことの失望。
- ⑤ これまで勝手な行動を繰り返してきた朱里を怒らせてこの場から追い払ったことへの歓喜。

問 10 この文章全体に見られる表現上の特色として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 21 にマークしなさい。

- ① 難解な表現を用いることによって、主人公の知性を際立たせている。
- ② 一人称の視点で主人公の内面を丁寧に描き、読者に共感をもたらしている。
- ③ 主人公の心情をあえて客観的に描写することで、読者に幅広い視点を与えている。
- ④ 主人公の感情を抑えて表現することで、物語全体を冷静かつ論理的に述べている。
- ⑤ 主人公の心情よりも背景や風景の描写に重点を置くことで、客観的な視点を与えている。

【三】 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

【配点20点】

これも今は昔、^{注1}丹後守保昌、国へ下りけるととき、与佐の山に、白髪の武士一騎¹逢ひたり。路の傍^{かたはら}なる木の下に、うち入りて
国司として赴任する時、与佐の山中で、
道^{みち}の傍らにある木の下に、入って

立てたりけるを、国司の郎等ども、「この翁^{おきな}、^①などうまよりおりざるぞ。奇怪なり。²咎^{とが}めおろすべし」と言ふ。ここに国司の言はく、
立っていたのを、
家来たちが、
どうして馬から降りないのか。けしからんことだ。責めただすのがよい。」
国司が言うことには、

「一人当千の^②馬の立てやうなり。ただにはあらぬ人ぞ。咎むべからず」と、制してうち過ぐるほどに、^{注2}三町ばかり行きて、^{注3}大矢の
「一人で千人に当たるような勇士の馬の立て方である。ただ者ではない人だぞ。責めただしてはならない」と、止めて通り過ぎるうちに、

左衛門尉致経、^{さゑもんのかみ}あまたの兵を^③具してあへり。^④国司会釈するあひだ、致経が言はく、「ここに老若や一人逢ひ^{たてまつ}奉りて候ひつらん。致経が父、
たくさん^{おほく}の兵士を連れてくるのに遭遇した。国司が頭を下げる時に、
このあたりで老人一人がお目に触れましたでしょうか。

平五大夫^{へいごたいふ}に候ふ。堅固の田舎人にて、子細を知らず、^⑤無礼を現し候ひつらん」と言ふ。致経過ぎてのち、「³さればこそ」とぞ言ひけるとか。
でございます。まったくの田舎者であつて、
無礼をいたしましたでしょう。」
致経が通り過ぎた後、「やはりそうか。」

(『宇治拾遺物語』による)

注1 丹後守 京都府北部の地域を治めた役人。

注2 三町 距離を表す単位。一町はおよそ109メートル。

注3 大矢の左衛門尉 「大矢」は弓の名手につけたもの。「左衛門尉」は役職名の一つ。

問1 線部①～⑤について、歴史的仮名遣いが用いられていないものを一つ選び、解答番号 22 にマークしなさい。

- ① などうまよりおりざるぞ ② 馬の立てやうなり ③ 具してあへり ④ 国司会釈するあひだ ⑤ 無礼を現し候ひつらん

問 2 ——— 線部 1 「逢ひたり」の主語として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **23** にマークしなさい。

- ① 保昌 ② 白髪 of 武士 ③ 国司 of 郎等 ④ 致経 ⑤ あまた of 兵

問 3 ——— 線部 2 「咎めおろすべし」とあるが、国司 of 郎等は「翁」 of どのような行動を責めているのか。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、

解答番号 **24** にマークしなさい。

- ① 丹後守保昌が前を通り過ぎる際に、この翁はたくさん of 兵士を連れていなかったこと。
② 丹後守保昌が前を通り過ぎる際に、この翁は路 of 木の下から出て来ず、馬を降りなかったこと。
③ 丹後守保昌が前を通り過ぎる際に、この翁は路 of 木の下から保昌のことを興味深げに見ていたこと。
④ 丹後守保昌が前を通り過ぎる際に、この翁は保昌たち一行に反感をあらわにし、無視していたこと。
⑤ 丹後守保昌が前を通り過ぎる際に、この翁は保昌たち一行に気づかぬふりをして挨拶をしなかったこと。

問 4 ——— 線部 3 「さればこそ」とあるが、何が「さればこそ」であるというのか。最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **25** にマークしなさい。

- ① 白髪 of 武士が致経 of 父親であったこと。
② 白髪 of 武士が素晴らしい武士であること。
③ 白髪 of 武士が田舎者で礼儀を知らないこと。
④ 白髪 of 武士が高齢で馬から降りられなかったこと。
⑤ 白髪 of 武士がわざと無礼を働いていたということ。

問5 致経の言葉からわかる父親の性格として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **26** にマークしなさい。

- ① 礼儀に厳しい人物
- ② 粗暴で攻撃的な人物
- ③ 頑固で時代遅れな人物
- ④ 素朴で事情に疎い人物
- ⑤ 臆病で疑い深い人物

問6 この文章の内容が表していることわざ・故事成語として最も適当なものを、次の①～⑤から一つ選び、解答番号 **27** にマークしなさい。

- ① 馬脚をあらわす
- ② 老いては子に従え
- ③ 能ある鷹は爪を隠す
- ④ 出藍の誉れ
- ⑤ 英雄は英雄を知る

国語の問題は以上です。

